

一般社団法人日本地震工学会

第4回 地盤情報データベースを用いた表層地質が地震動特性に及ぼす影響に関する研究委員会
議事要旨

1. 日 時 平成24年3月22日(木) 10時~12時

2. 場 所 建築会館304会議室

3. 議 題

(1) 来年度活動方針

- ・平成23年度活動成果報告と平成24年度アクションプラン
- ・平成24年度国内シンポジウムの開催について
- ・平成24年度地震工学会大会オーガナイズドセッション提案
- ・平成25年度国際ワークショップの開催について

(2) 話題提供

- ・東北地方太平洋沖地震における足柄平野の免震住宅の応答と地盤震動特性(飛田)
- ・東北地方太平洋沖地震による築館強震動の要因解明(山中)

(3) その他

- ・委員の変更, 追加について

4. 配布資料

ESG 4-1 第3回ESG研究委員会(※)議事要旨案

ESG 4-2 平成23年度活動成果報告, 平成24年度アクションプラン, 活動計画

ESG 4-3 平成24年国内シンポジウムの開催について

ESG 4-4 平成25年国際ワークショップの開催/地震工学会大会セッション提案について

ESG 4-5 About IWSMRR

ESG 4-6 2011年東北地方太平洋沖地震において足柄平野に建つ免震住宅で観測された応答変位とH/Vスペクトルの関係, 日本建築学会東海支部研究報告書, 50, 341-344.

ESG4-7 2011年東北地方太平洋沖地震の余震観測と微動探査によるK-NET築館観測点周辺での地盤増幅特性の評価, 物理探査, 64, 389-399.

※ESG: Effects of Surface Geology on seismic motion 表層地質が地震動に及ぼす影響.

以下, 「地盤情報データベースを用いた表層地質が地震動特性に及ぼす影響に関する研究委員会」について ESG 研究委員会と略称する.

5. 出席者

*委員長 山中(東工大)

*委員 安田(東京電機大), 清木(宇都宮大), 大井(防災科研), 長瀬(応用地質), 王寺(中央開発), 早川(清水建設), 植竹(東京電力), 南雲(東電設計), 片岡(国総研), 松島(京大防災研), 横井(建築研), 東(電中研)

*オブザーバー 飛田(名大), 津野(JR総研)

6. 議事概要

(1) 前回議事要旨案が確認された.

(2) 平成23年度活動成果報告と平成24年度アクションプラン, 活動計画案

- ・東委員より資料 4-2 で報告があり，来年度アクションプラン，活動計画案については後の議題のシンポジウム開催の決定に従うこととした。
- ・アクションプランの一部に誤記があり，修正のうえ承認された。

(3) 平成 24 年国内シンポジウムの開催について

- ・東委員より資料 4-3 でシンポジウム開催案の報告があり，議論した。決定事項は以下の通り。
 - ・有料開催とする。
 - ・開催場所は東工大田町で 70～80 名収容可能。
 - ・開催時期は 7 月 30 日を目標とする。
 - ・今回は国外からの招聘はしない。
 - ・内容は招待講演のみとして，東日本大震災関係に関連する以下の課題でレビューを含め時間を十分にとって話をしてもらう。() 内は候補として挙げた先生名(敬称略)。
 - 長周期地震動(川辺，古村)
 - 大加速度地震動(築館：東工大，京大防災研，清水建設)
 - 液状化・非線形応答(堀，末富)
 - 震源特性(浅野，芝，瀬瀬，入倉)
 - 建物被害(境，飛田，源栄)
- ・具体的な開催プランは ESG メーリングリストで議論のうえ決定することとした。
 - ・有料開催であれば内容梗概集は必要
 - ・7 月 30 日の週で開催すると 4 月には発表者の承諾を得て原稿を依頼する必要あり，6 月末に印刷くらいの工程か。

(4) 平成 25 年国際ワークショップの開催について

- ・東委員より資料 4-4 で説明があり，横井委員が担当されている微動の国際ワークショップ(10thIWSMRR)とのジョイントワークショップとすることが提案された。
- ・横井委員より資料 4-5 で IWSMRR の経緯説明があった。微動を用いたマイクロゾーニングを中心とする研究交流会で，第 10 回を今年度日本で開催することを予定していたが様々な学会による大震災 1 周年記念行事が立て込んで延期したこと，国外からの研究者を招聘する予定であること，開催規模は 50 名程度であることが報告された。
- ・安田委員より，地盤工学会で ATC10 があり，マイクロゾーニングに加えて斜面崩壊や表層地盤等に関する国際シンポジウムを今年開催する予定であること，ESG 国際ワークショップへの協力は可能であることが述べられた。
- ・国際ワークショップの開催の意義について委員から質問があり，山中委員長より回答があった。
 - ・IASPEI/IAEE ジョイントワーキンググループによる第 4 回国際 ESG 研究シンポジウムが 2010 年に UCSB で開催され，次回は 2016 年台湾で予定されている。
(第 1 回小田原，第 2 回横浜，第 3 回仏グルノーブルで開催)
 - ・研究委員会の最終アウトプットとして講習会等の開催あるいは報告書が求められており，ESG 研究の国際ワークショップ開催時期としても丁度良い。
- ・国際ワークショップ開催について異論はなく，2013 年 6 月開催(1～2 日間)の方向で

適宜メーリングリストを利用して議論しながら準備を開始することとなった。

- ・IWSMRR とのジョイント開催については東委員から研究統括委員会に諮り可否を問うことになった。

→研究統括委員会に諮ったところ、ジョイントの際に日本地震工学会の研究委員会名が見える形であれば問題ないとのこと。

(5) 話題提供

- ・飛田名大教授より「東北地方太平洋沖地震における足柄平野の免震住宅の応答と地盤震動特性」について話題提供があり、免震住宅は固有周期 3 秒程度であったが、足柄平野西部で 30cm 程度の変位が観測されたこと、微動の H/V から変位が大きい地点で周期 3 秒程度にピークが観測されたことが報告された。これに対して、地下構造や強震観測網からは南東部（免震住宅は幸い？にない部分）にやや長周期の応答が大きい部分があると考えられるが西部で周期 3 秒が卓越するのは興味深いこと、臨時地震アレイ観測の実施を考えてみてはどうか、といった議論がなされた。
- ・山中委員長より K-NET 築館観測地点周辺での微動、強震観測による地盤構造と増幅特性について話題提供があり、K-NET 観測点が設置されている崖上と崖下の地盤と応答の違い、崖上の臨時観測点と K-NET 観測点の地盤の違いについて議論がなされた。

(6) その他

- ・委員の変更、追加希望があれば 3 月末までに山中委員長、東幹事まで連絡のこと。
- ・次回開催は 5 月を予定、日程調整を行った上で決定する。

以 上